

# 会 議 録

## 1 会議名

第3回上越市総合計画審議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 第7次総合計画の全体構成について（公開）
- (2) まちづくりに込める想い（基本理念）、将来都市像の補足説明について（公開）
- (3) まちづくりの目標（政策）について

## 3 開催日時

令和4年6月28日（火）午後1時30分から3時30分まで

## 4 開催場所

上越市役所第一庁舎4階 401会議室

## 5 傍聴人の数

3人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：大谷和弘、古川政繁、卜部厚志、小泉美佐子、林泰成、山縣耕太郎、市川克巳、柴野嘉紀、阿部利夫、高橋慶一、金子彰、飯塚多佳志、大山賢一、関原英里子、青木ユキ子、牛田光則、打田亮介、江村奈緒美、徳道茂、山崎活美
- ・事務局：池田企画政策部長、大島企画政策課長、志賀参事、内山副課長、海津係長、新保主任、丸山主任、伊倉主任、上石主事

## 8 発言の内容（要旨）

### (1) 開会

会長あいさつ

#### 【林泰成会長】

本日はお忙しい中ご出席を賜り、感謝申し上げます。

3回目の審議会となる本日の内容は、前回の会議中や会議後に事務局に寄せられた委員からの質問・意見や、先日行われた市議会所管事務調査の中での意見等に対

する説明や対応の報告をいただくと聞いている。

また、前回、継続審議となった「まちづくりに込める想い」と「将来都市像」の補足説明があると聞いているので、ご意見を頂戴したい。

さらに、本日の主な議題は、第7次総合計画におけるまちづくりの目標や政策施策の体系案についてである。具体的な施策に対して、委員の皆様から、専門的な視点、あるいは日々の経験の中から、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えており、ぜひ活発な議論をお願いしたい。

## (2) 報告

### 【事務局（海津係長）】

総合計画審議会及び総務常任委員会所管事務調査における意見等の対応について、資料1により説明。

### 【江村奈緒美委員】

8月に高校生・大学生のワークショップを予定しているとあるが、詳細についてお聞きしたい。

### 【事務局（大島課長）】

約30名の高校生・大学生から、まちの展望や期待することなどについて話し合ってもらい、その内容を市長に提言いただき、最終的には総合計画や今後の施策に反映していきたいと考えている。ワークショップは、8月7日に開催を予定しており、市ホームページにも情報を掲載しているのでご覧いただきたい。

### 【江村奈緒美委員】

どのように参加者を募集しているのか。

### 【事務局（大島課長）】

市ホームページへの掲載に加え、今週から来週にかけて市内の高校・大学を訪問し、チラシを配布する。

### 【山縣耕太郎委員】

バックキャストで計画策定を行うとのことだが、何を根拠に目標を設定していくのか。

また、「上越らしさ」について、市内に住んでいる人の意見を中心に導き出しているが、市外から移住してきた人や市内から市外へ転出した人の意見を別に示すことで、「上越らしさ」を多面的に捉えることができるのではないか。

**【事務局（新保主任）】**

1点目の目標については、市民の意見などを聴取する中で積み上げて描いた、ありたい姿がまずは目標になる。数値目標については、今後、基本計画を検討していく中で、ありたい姿と具体的な取組を関連付けながら改めて検討していきたい。

**【山縣耕太郎委員】**

ありたい姿は重要だと思うが、漠然としてしまう印象がある。他の自治体の成功事例などが参考になるのではないか。

**【林泰成会長】**

私も当初はバックキャストによる計画策定は、目標として理想が先行してしまい、現実から遊離したものになるのではないかと危惧していたが、バックキャストといえども、現状を無視して進めるわけではなく、現状と理想を行ったり来たりしながら進めていくことになるのではないか。

(3) 議事

ア 議題(1) 第7次総合計画の全体構成について

イ 議題(2) まちづくりに込める想い（基本理念）、将来都市像の補足説明について

**【事務局（海津係長）】**

資料2、資料3により説明。

**【林泰成会長】**

前回、継続審議となった「まちづくりに込める想い」、「将来都市像」については、個別の分野や地域を包含して市全体の方向性を示すものであり、抽象的な表現になる部分もあると考えている。今後、具体的な政策や施策の審議に移行することから、「まちづくりに込める想い」と「将来都市像」については、今回で決定したい。

**【大山賢一委員】**

2040年の「まちづくりに込める想い」を、「基本理念」としているが、「目標」という表現が妥当ではないか。長期的な目標として2040年の姿があり、中間的な目標として「将来都市像」があると理解している。

また、政策展開の考え方について、「生活の質の向上」と「思いと希望を次代に繋ぐための政策」を実線で囲み、それらが関連する人口減少対策を破線で囲んでいるが、この3つは一体として考えるべきものであり、実線と破線で別物のように示さないほうがよいのではないか。

「まちづくり込める想い」の「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」について、「暮らし」は目標とは捉えられないため、「暮らしができるまち」のような表現にしてはどうか。

**【事務局（新保主任）】**

「まちづくりに込める想い」については、市民の想いなどを集約する中で最終的に目指す状態として設定したものであり、目標とする姿であると考えている。理念とするのか目標とするのかなど、表現については今後策定を進める中で適切に判断していきたい。

政策展開の考え方についても関係性を整理し、わかりやすく表示したい。

「まちづくりに込める想い」については、事務局としては暮らしの実現と理解しているところであるので、この表現についても改めて検討したい。

**【林泰成会長】**

理念や目標に類似する言葉としては、目的やビジョン、ミッションなど企業でもさまざまな表現が用いられているが、委員それぞれの専門の立場からご意見いただきたい。

**【徳道茂委員】**

私も基本理念が「暮らし」で終わることに違和感を覚えている。今ほど事務局が言われたように「暮らしの実現」とする方がわかりやすいと感じる。

**【林泰成会長】**

個人的な考えだが、目標や目的というと実現可能なものとして想定されているような印象を受けるが、理念というと、そこまで到達できないにしても一つの理想形が示されているように思える。目標の先に理念が設定されているのであれば、2040年の姿については理念とした方がよいのではないかと感じた。

**【牛田光則委員】**

私も個人的には基本理念が「暮らし」で終わるのに違和感を覚えるので、実現などをつける方がよいと感じている。

基本理念の説明に「市民の暮らしとまちの成長を支える確かな基盤を確立していく」ことが必要との記載があるが、私が住んでいる地域は明らかに成長や拡大とは言えない地域であるし、上越市全体を見てもまちの成長というよりは、コンパクト化を指向すべきではないかと考えている。まちの成長について、具体的にどうい

イメージをしているのか。

また、個人的な考えだが、今後の上越市はコンパクト化をしながら、いかにQOLを維持していくのかということが課題だと考えており、そういった危機感を表現していただきたいということで前回の審議会で発言した。

最後に、第6次総合計画と第7次総合計画で大きく変わったと事務局側で考えていることがあれば教えてほしい。

**【事務局（池田部長）】**

まちの成長については、一人当たりの総生産額が増加し、市民が一定の所得を得られるようなことをイメージしている。

危機感を表現することについては、考え方が分かれると思っている。当然、行政としても危機感は抱いており、今回、地区別の将来推計人口の資料もお示ししているが、こうした中、どのように地域を維持していくかは非常に難しい問題であり、答えを出しかねている状況である。コンパクト化という話もあったが、一方では反対の立場の方もいる中でどのようにまちづくりを行うか、また、高齢化が進む中で限られた資源を高齢者と若者でシェアしていくか、財源をどのように確保していくかといった課題に向き合っていかなければならない。こういった問題意識は計画の中で提示していきたいと考えてはいるが、将来都市像からそのニュアンスを表現するのはいかがかという思いがあった。

第6次総合計画からの大きな変更点としては、計画期間よりも先を見据えてどのような準備をしていけばよいかと考えている点と、将来都市像で「希望あふれる」と表現しているように、特に若者や女性といった上越市の将来を担う力を育成していくといったことに着目しているという点であると考えている。

**【牛田光則委員】**

今、説明されたような内容が伝わるような書き方、また、そのための政策が実現することを期待する。

**【大谷和弘副会長】**

内容については問題ないと感じているが、将来都市像で、「暮らしやすさ」を「守り」、「希望あふれる」を「攻め」としているのであれば、「攻め」を上を持ってきて強調する方がよいのではないか。

**【事務局（大島課長）】**

「攻め」と「守り」については、並列の関係であると考えている。審議会の意見として、「希望あふれる暮らしやすいまち」がよいということであれば変更を検討するが、事務局としては現行案のとおりにしたいと考えている。

**【林泰成会長】**

先ほどもお伝えしたとおり、「まちづくりに込める想い」と「将来都市像」については、ここで確定したいと思う。基本理念を目標にしてはどうかといった意見や、将来都市像の順番を入れ替えてはどうかといった意見などがあったが、事務局としてはどう考えているか。

**【事務局（池田部長）】**

基本理念は上越市のまちづくりを考える上で基本に据える想いのようなものであると考えている。事務局としては2040年の理想の姿として「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」を設定しており、表現については十分気を付けるが、原案のとおり提案したい。

将来都市像の順番については、「攻め」の部分を強調する考えもあると思うが、事務局の考えとしては、2040年の状態を目指す上で、まずは暮らしやすさを整え、その後に希望を持てるような状況を作っていくことを想定しており、取組の順序を意識して設定している。

**【林泰成会長】**

事務局としては原案のとおりお願いしたいという主旨だと思うがどうか。

**【金子彰委員】**

言葉についてはいろいろあるかと思うが、今後、基本計画を審議する中で、取組の軽重や濃淡が出てくると思われることから、基本計画がある程度固まってから、改めて審議することにはどうか。

**【飯塚多佳志委員】**

オンラインやメール等も活用し、本日欠席した委員も含めて臨時審議会のようなものを開催し、多数決などで決定するのも一つの手段ではないか。

**【林泰成委員】**

今ほど提案もあったように、先々に修正の必要があればその段階で議論することとし、現段階では暫定で原案を認めるという形をとりたいと思うが、事務局はどう

考えるか。

**【事務局（大島課長）】**

意見をお聞きしている限りでは、言葉を足したり、順番を入れ替えたりといった範囲で、内容が大きく変わるというものではないと思われることから、暫定でもここで決めていただけるとありがたい。

**【林泰成委員】**

それでは、暫定的に原案のとおりとし、具体の議論の中で問題が生じた場合は修正することとしたい。

ウ 議題(3) まちづくりの目標（政策）について

**【事務局（海津係長）】**

資料4により説明

**【大山賢一委員】**

将来都市像について、副題を入れることを検討すると記載があるが、説明がなかったので詳しくお聞きしたい。個人的には将来都市像をいくつも出すとかえって分かりにくくなることから、不要であると考えている。

**【事務局（海津係長）】**

将来都市像自体が継続審議となっていたこともあり、今回はお示ししていない。今後、小・中学生の標語等の要素も取り入れながら、入れるかどうかも含めて審議会に諮りたい。

**【打田亮介委員】**

施策の柱は仮の状態であると思うが、空き家対策についてはどこに含まれるか。

**【事務局（新保主任）】**

「安心安全、快適で開かれたまち」中の「快適に暮らせる都市空間の整備・充実」に政策を位置付けていくことを考えている。

**【事務局（大島課長）】**

全体的な補足になるが、今回お示しした案は、市役所内部の調整がまだ図られていない状態のものであり、次回以降、より具体的な内容も含めてもう少し練ったものをお示しする予定である。今回は、今ほどご質問いただいたように、政策や施策の内容・位置づけなどについてご意見をいただきたいと考えている。

**【山縣耕太郎委員】**

環境分野について、県の総合計画でも明記されているもので、鳥獣被害の対策が重要な課題であると考えますが、該当する施策の柱がないように思える。

脱炭素社会の実現に向けた取組について、排出量の削減に関する取組は挙げられているが、炭素の吸収源である森林を増やすということも取り入れてよいのではないかと。

また、全体として、施策の柱は前向きな内容になっているように見えるが、課題への対応という視点が欠けているように感じた。

**【飯塚多佳志委員】**

SDGsの推進について、施策とSDGsを関連付けていくことになると思うが、SDGsの進捗の評価はどのように行うことを考えているか。

また、基本政策の「若者活躍の推進」について、ビジネスの面から創業支援のような取組も該当するのではないかと。

**【林泰成会長】**

SDGsの進捗の評価ということについて、事務局から回答いただきたい。

**【事務局（新保主任）】**

SDGsのゴールを計画のどこに紐づけていくか内部で協議しているところではあるが、資料で示した「施策」の部分に紐づいていくことを想定している。SDGsは世界規模の取組であり、基礎自治体単位の関連指標は公表されていないものも多くあることから、施策の指標を検討する中で、SDGsの指標を活用できるか確認しながら目標を設定したい。

**【江村奈緒美委員】**

中山間地域振興について、説明の中では関係人口の分野で少しふれられているのと、交通の分野の中に一部含まれると考えている。田んぼを守っていくことや、中山間地でも暮らしていけるよう、中山間地を大事にしてほしい。

**【山縣耕太郎委員】**

江村委員と同意見である。上越市は中山間地域が多くを占めているが、中山間地の問題は深刻化している。地区別の将来推計人口を見ても、平場と中山間地では状況が大きく異なっている。こういったことから、中山間地と平場とで施策の方向性を分けて記載する必要があるのではないかと。



**【事務局（大島課長）】**

第6次総合計画の中では中山間地域の振興については、農林水産分野の中で「中山間地域の振興」という項目があった。第7次総合計画では、次回お示しする予定の「土地利用構想」の中で、課題提起や対策等を入れ込みたいと考えている。中山間地は課題があるが、中心市街地もまた別の課題があることから、基本政策や施策においては、全市的なそれぞれのエリアの課題を入れ込みながら検討したい。先ほどお話いただいた鳥獣被害も含め、市としては問題意識を持っていることはお伝えしたい。

**【関原英里子委員】**

不妊治療に関することは、デリケートな問題でもあり、また人口減少対策にもつながることから、どこかに入れてもらいたい。

**【事務局（新保主任）】**

「次代を担う人を育むまち」の中に位置付けていきたい。具体的な内容については、内部で調整しながら検討していく。

**【徳道茂委員】**

空き家の増加に対する対策や、移住定住に向けた空き家の活用などの施策はどこに位置付けられるのか。

**【事務局（新保主任）】**

基本的には「快適に暮らせる都市空間の整備・充実」の中に位置付けたいと考えているが、放置すると災害につながるという面があったり、移住施策との関連もあることから、どのように整理するかは引き続き検討したい。

**【高橋慶一委員】**

現在、厚労省が地域ごとの医療体制についての議論を進めている。施策の柱ではセンター病院の機能拡充となっているが、将来の地域医療体制を検討する上では全ての病院を対象として議論を進めてほしい。

また、医療体制の充実は若い医師の働く場にもなることから、注力してほしい。

**【事務局（大島課長）】**

地域医療体制の整備については県を中心に、秋ごろまでにある程度の議論が行われると聞いている。施策の柱としては「地域医療ネットワークの構築」が該当するかと思うが、全市的な視野を持ちながら取り組むよう、関係部局に伝える。

人材育成という観点からは、医療だけでなく、様々な分野で人材不足が問題として挙げられていることから、若者活躍・人材育成といった視点からも取組を検討していきたい。

**【大山賢一委員】**

学校の適正配置と地域自治区の推進の関係性について聞きたい。将来推計人口を見ると、2050年に1千人未満になる地区が11か所あり、地域自治区の統合や再編ということも視野に入れて地域自治区の推進という施策を記載しているのか。

**【事務局（大島課長）】**

お示ししたとおり、今後、人口減少が著しい地域がある。現に大島、浦川原、安塚で中学校の統合が議論されており、そうしたことを受けて学校の適正配置ということに記載している。一方、地域自治区の推進は、いかに地域自治区を活性化させていくかを考えていくことを想定しており、根底では関係性があるかもしれないが、政策的には分けて考えている。

**【江村奈緒美委員】**

虐待やDVについて考えたときに、加害男性の回復プログラムについて、上越市でどの程度取り組まれているのかと感じた。実際に何か問題が起こってから回復しようとするとは非常に大変であることから、予防の部分に力を入れてもらいたい。

**【事務局（大島課長）】**

市としては男女共同参画推進センターやすこやかな暮らし包括支援センターなどに相談窓口を設置しているが、予防に関してどの程度取り組んでいるかは確認したい。いずれにせよ、今後の政策の中でできることはやるべきであると考えてるので、関係部局へ伝えたい。

**【山崎活美委員】**

男女共同参画推進センターの相談員を8年経験したことがあるため、補足説明させていただく。センターでは男性からの相談も受け付けると謳ってはいるものの、男性からの相談は極端に少ない状況であり、もっとアピールをしてもよいと思う。

また、LGBTや性的マイノリティあるいは子どもの貧困などが、どういう状況でどこに相談しているのかなど、調べた上で、今後の政策の中でそうした問題がイメージできる柱があるとよいと感じた。

**【事務局（大島課長）】**

山崎委員からいただいたご意見について、子どもの貧困やLGBTをはじめとする性的マイノリティの方の相談窓口自体はあり、現在も取り組んでいると認識している。

一方で、ヤングケアラーなどの新たな課題が生まれていることは認識していることから、具体的な政策として見込めるものは総合計画に入れ込みたい。

**【金子彰委員】**

交通ネットワークをいかして快適に暮らしやすいまちを目指すとの記載があるが、具体的なビジョンのようなものがあればお聞きしたい。

**【事務局（池田部長）】**

交通の関係で補足させていただくと、例えば新幹線により時間的距離が縮まることで、学業や職業の選択の幅が広がることがある。また、交通の結節点という意味で、上越妙高駅をゲートウェイに位置付けているが、さらに産業を集積し、イノベーションが生まれる空間を創出していくことも考えられる。

一方で、在来線を維持して市民の移動手段を確保することも必要である。在来線を維持することで貨物ネットワークが確保でき、線路の使用収入にもつながる。

交通ネットワークは遮断されることがあってはならないと考えており、繋がっているからこそ得られる便益を市民の暮らしに反映していけるような方策を検討していくため、記載したところである。

**【林泰成会長】**

会議の終了予定時刻になることから、言い足りない意見については改めて事務局へ送付いただきたい。今回の会議で出た意見については、事務局でとりまとめ、より具体的な形で提示いただきたい。

**【事務局（大島課長）】**

冒頭で江村委員から質問があった、高校生・大学生ワークショップについて、チラシをお配りした。このチラシをもとに高校・大学を訪問して案内したい。

**【江村奈緒美委員】**

チラシには市内在学とあるが、例えば関東などに進学した人が個人で参加するようなことはできないのか。

**【事務局（大島課長）】**

今回は大学のサークルや高校の生徒会などのグループ単位での申し込みを想定している。市外在学の方については、企画政策課にご連絡いただければ個別にご意見は伺いたい。

(4) 閉会

企画政策部長挨拶

**【池田企画政策部長】**

熱心に議論いただき感謝申し上げます。具体的な政策や施策の柱を提示させていただき、委員の皆さまの知見をいただく場面に移ってきた。皆さまからいただいた意見を受け止めつつ、庁内でしっかりと議論をしていきたいと考えていることから、会議の場以外でもご意見をいただければありがたい。引き続きの協力をお願いしたい。

(5) その他

**【事務局（内山副課長）】**

次回開催日程等の事務連絡。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画調整係

TEL：025-520-5625

E-mail：kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。